



結果

9日の卒業式の翌日には、東大や一橋、京大などの国公立大学前期日程の合格発表があった。最近では情報化が進んでいるので、すでに部活の先輩の合否などを知っている人も多いのではないと思う。折しも2年生は修学旅行中だが、前の学年を担当していた時には、生徒たちは移動しているバスの中で、メールで部活の先輩たちなどから情報を収集しており、むしろ私よりも先に結果を知っていたりした。いや、怖ろしい世の中である…。

で、今年の中間報告ではあるが、このような印刷物に載せることはまだできないので、口頭で伝えることにしよう。

- 東大
- 東工大
- 一橋
- 京大

現役については、東大の合格者数が予想よりちょっと少ないというのが、恐らく3年生の担任団の正直な感想ではないかと思う。昨年は後期日程でも2名の合格が出ているのでさらに増える可能性はあるが、現役の合格者数で昨年に並ぶのは厳しそう。一方、京大は倍増、一橋は3倍増。センターの結果が厳しかったこともあり、志望変更ということがあったのかも知れない。その辺りの分析はこれからなされるだろう。

私立の早・慶・上智はというと、

- 早稲田
- 慶応
- 上智

早稲田は年々受験者そのものが減っており、指定校推薦にさえ出願しないのだが、それでも現役についていえば、昨年よりも合格者数が10名近く増えており、なかなか立派

な結果といえそうだ。浪人生の情報もさらに付け加ると、かなりの数になるだろう。日比谷で人気の慶応については、現役が昨年よりもさらに30名以上合格者数を増やしている。この数が効いて、難関私立の現役合格者数は、昨年よりも30名以上増えた。

もう一つ合格者数が増加したのが、公立現役生には難関と言われる医学部医学科の合格者数である。現役については、国公立が昨年の2.5倍、私立は4倍（…って、合格者数がそもそも少ないのであるが…）。浪人生もがんばっていて、やはり昨年の浪人生の倍近くになっており、その結果、現浪合わせても、昨年の2倍を超える合格者数となった。以前このWeでも掲載したが、T予備校のH先生がインタビューに答えて、

もう一つ大きいのは、今の若者は、国立の医学部志望がものすごく多いんです。安定志向だから。

つまり、医学部に行けば将来安泰だと。

食いつぱくれはないだろうと。例えば、一昔前なら京大の理学部に行っていたような子が、いまは大阪大学の医学部に行くんです。それで国立大の医学部に、優秀な人材が集中するようになった。

と指摘していたような状況が、やはり理系についてはあるのかも知れない。

*

さて、2年後には、君たちもこの世界に挑戦する、つまり、全国のトップレベルの諸君と合格を争う世界に参入するのである。今、この時から、一歩ずつ力を高めていこう。